

全小社研

・発行所
・全国小学校社会科研究協議会
・東京都杉並区高井戸西2-2-1
・発行人 久保田 福美
・編集人 後藤 信行

徳島大会への期待

全国小学校社会科研究協議会会長
東京都杉並区立高井戸小学校校長

久保田 福美



全国小学校社会科研究協議会（全小社研）第八十八回理事会が、六月十一日に開催されました。ご多用の中を、大勢の顧問の先生方や全国の理事の皆様方のご出席をいただき、ありがとうございました。

理事会では、役員体制、各事業計画等も承認され、本年度の全小社研の活動がスタートしました。全国の社会科教育のさらなる充実・発展に向けて、皆様と共に頑張ってください。どうぞよろしくお願いたします。さて、この日、理事会終了後

に、文部科学省教科調査官澤井陽介先生の記念講演がありました。澤井先生からは、「社会科教育の動向」という演題で、観別学習評価の改訂について、具体的に教えていただきました。その中で、これまで「技能」についていた「表現」が「思考・判断」の項目に移されたこと、社会科においても、なおいっそう言語活動を重視し、思考・判断・表現を一体的に評価していくことが強調されていました。折しも、新しい教科書の採択作業が進められ、平成二十三年四月からの新教育課程完全実施に向けた取り組みが、各地区・各学校で、進められています。このような中で、第四十八回全小社研徳島大会が、十一月十八日・十九日の両日にわたって開

催されますことは、誠に意義深いことであります。

今回の大会主題は、「明日を拓く子どもが育つ社会科学習」です。めざす子ども像は、①社会的事象に関する知識を習得、活用し、価値判断・意思決定する力を身に付けた子ども、②社会的事象や友達と豊かにかかわりながら、主体的に自らの学びをつくり出す子ども、③自己と豊かにかかわることによって、自分に自信をもち、新しい自分を生み出す子ども、です。

このような子ども像に迫るために、子どもの主体的な問題解決学習の過程に、子どもが価値判断・意思決定する場面を意図的・計画的に設定した社会科学習を展開していくことが提案されます。それは、まさに新学習指導要領の社会科のキーワードでもある「社会参画」の態度や能力の基礎を培っていくことにつながるものでもあります。

徳島大会実行委員長の檜幸正先生を中心とした徳島県小学校教育研究会社会部会の皆様に敬意を表するとともに、全国から多くの方々がこの大会に参加され、その成果を各地域で生かしていくことを願っています。

「移行期の社会科教育について」

全国小学校社会科研究協議会副会長
大阪府大阪市立聖和小学校校長

大賀 拓司



トさせるためには、指導者が社会科の授業に対するイメージをもつ必要があります。

①今回の改訂で新たに強調された多様な「表現活動」や「言語活動」を取り入れた授業

②社会科が従来から大切にしてきた「問題解決的な学習過程」を踏んだ授業や、「体験的な活動」を効果的に位置づけた授業、これらの授業のイメージを、社会科を中心に研究を進めている先生以外にも、多くの先生方、特に若手の先生方にもってもらいたいと思います。

そのためには実践研究が欠かせません。全小社研徳島大会をはじめ各地域で開催される研究会への参加はもちろん、大阪

市でも積極的に新指導計画に基づく授業を公開し、社会科授業のイメージをふくらませる契機にしていきたいと思っています。

新学習指導要領の全面実施は、社会科の授業を質的に高め、社会科に関心をもつ仲間を増やすチャンスと考えています。

新学習指導要領の完全実施まで数か月となりました。「全小社研各地域の動向」を見ますと、各地域では、教材開発や副読本の改訂作業が進められ、新しい指導計画が実施を待つばかりになっています。大阪市では残された半年間に以下のような取り組み行っていきたいと思えます。

1、新指導計画を点検する。
①開発した新内容の教材化準備が各校で十分にできているか。

②評価の観点が「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用

の技能」と変更になったが、新指導計画に、調べて考えたことを説明したり論述したり討論したりする学習活動が適切に位置づけられているか等。

2、授業のイメージを図る。
新指導計画をスムーズにスター

第四十八回全国小学校社会科研究協議会徳島大会

「明日を拓く子どもが育つ社会科学習」とは

徳島大会実行委員長 檜 幸正



一 「明日を拓く子どもが育つ社会科学習」とは

徳島県では、昭和四十五年の第八回大会以来、『三層六段階』の学習過程を基本とする子どもの主体的な問題解決的学習を研究してきました。子どもが主体的に問題解決的な学習を行う過程で、学習方法を身に付け、社会的対象と豊かにかかわりながら、お互いが調べた内容を共有することによって多面的な社会認識を子どもたちにもたらし、結果として公民的資質の基礎を育成しようとするものでした。

しかし、調べた内容を共有するための発表会的な活動が子どもたちの目的となりがちで、教師の手だてに工夫がなければ、調べたことを活用して考え、伝え合うことでお互いの考えを深めていくような学習にはなりにくい

という課題がありました。また、結果として公民的資質の基礎を培うだけでなく、直接的に公民的資質の基礎を培うことができないであろうかという課題もありました。

そこで、これらの課題を解決する、つまり、社会的対象や友達とのかかわりを豊かにし、直接的に公民的資質の基礎を培うことのできる社会科学習の研究に、平成十三年度から着手しました。

社会の形成にかかわることのできる能力を公民的資質の重要な要素としてとらえ、中でも価値判断・意思決定する力の育成を目的として研究を進めてきました。その中で、判断場面ありき、討論ありきの考え方で、単元の学習をつくってしまっているのではないかとの課題も出てきました。その解決には、「三層六段階」を基本型とする子どもの主体的な問題解決的学習と、価値判断・意思決定する力を培う社会科学習を効果的に組み合

わせることで、克服できるのではないかと考えました。

つまり、子どもの主体的な問題解決学習の過程に、子どもが価値判断・意思決定する場面を意図的・計画的に設けた社会科学習をつくり出すことです。

ここで、「価値判断・意思決定する力」とは、社会的対象に関する価値観の分かれるような問題場面について、社会的対象を根拠とした主張を交流・吟味し合い、その結果、合理的に判断し、より望ましいものを選択・決定することができるとのことです。授業に即した形で言えば、習得した社会的対象を根拠にしてつくった主張を交流・吟味し合い、その結果、価値観が分かれるような複数の主張の中から、よりよい主張を選択したり、条件を付けるなどして歩み寄り、よりよい主張を決定する力です。三〜六年の発達段階に応じて、培いたい価値判断・意思決定する力も明らかにする必要がありますと考えています。

二 「研究内容」

① 主体的な学びをつくり出し、よりよい社会の形成に参画する資質・能力を培う教材について

ア 地域教材の扱い方
イ 学習内容の構造化

特に教材の構造の面で
○人物から人間の営みとしての社会に迫ることが
ができるか
○価値判断・意思決定する場面を設定できるか
○教材が培いたい資質・能力を培いたいことに
適しているか

② 主体的な学びをつくり出し、よりよい社会の形成に参画する資質・能力の基礎を培う学習過程について

― 学習問題づくりと価値判断・意思決定―

③ 自らの変容や高まった自分の姿が分かり、次への意欲をもつことができる自己評価について

第四十八回全国小学校社会科研究協議会研究大会徳島大会は、十一月十八日（木）十九日（金）に開催いたします。

全国の皆様、ぜひ四国徳島各地へお越しください。
研究の概要、両会場校の研究状況などの詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.tv-naruto.ne.jp/zensyosyaken/tokushima/>

第一会場

徳島市津田小学校

校長 谷 利昭

一 学校紹介

徳島市の東端に位置し、児童数約八〇〇名、二七学級の創立一三八年を迎える歴史ある学校です。学校の西側には地域のシンボルでもある津田山があり、四季折々の美しい姿を見せてくれます。校区は、昔から漁業と海運の町として栄えてきましたが、近年ベッドタウン化が進みつつあります。

二 研究主題

社会的対象・友達・自己と豊かにかかわり合い、社会的な見方や考え方を深める子どもの育成

三 研究の内容

(一) 主体的な学びをつくり出す教材の工夫

子どもの知的欲求を喚起し社会的対象・友達・自己と豊かにかかわり合いながら、進んで調べたいと思うことのできる教材を工夫する。

① 地域素材の教材化

地域教材は、社会的対象と子どものかかわり合いを深め主体的な学びをつくり出すこ

とができる。教材化する条件や活用の仕方を考え、効果的に活用していく。

②体験的・作業的活動

体験的・作業的活動を学習に取り入れることによって、学習への興味・関心を高め、友達とのかわり合いを深めることができる。

③学習内容の構造化

学習内容の構造化を図ることとて、子どもが習得・活用する内容が明らかとなり、学習活動を組織化したり、教師の手だてを明確にしたりすることができるとができる。

(二)豊かにかかわり合い、社会的な見方や考え方を深める学習過程の工夫

社会的事象・友達と豊かにかかわり合いながら、問題解決的な学習過程の中に、価値判断・意思決定する場面を意図的・計画的に設定する。

①学習問題づくり

一人一人が学習問題を自分とのかかわりでとらえ、「ぜひ解決したい。」という切実感のある学習問題づくりを進めていく。

②価値判断・意思決定する場面の設定

社会的事象を根拠とした主張を交流・吟味し合い、よりよい主張を選択したり決定したりする場面を設定することによって、子どもの社会的な見方や考え方が深まっていくであろうと考える。

(三)かわり合いを通して、社会的な見方や考え方が変容した自分に気付く自己評価の工夫

社会的事象・友達とのかかわり合いを通して、見方や考え方が変容してきたか、子ども自身が自分の学びを振り返る自己評価を工夫する。

①自己評価の場、方法、観点

子ども自身が学びの過程を振り返る「学びの自覚化」を引き出すために、ノートやワークシートを活用する。

②友達とのかかわり合いを生かした自己評価

友達とのかかわり合いの中で、社会的事象に対する自分と友達との見方や考え方を比較・検討することによって変容した自分に気付いていく。

本校では、問題解決的な学習を進め、社会的事象を根拠とした主張の交流・吟味を大切にしています。

第二会場

徳島市国府小学校

校長 小林 統

一 学校紹介

本校は、明治八年に開校され、現在二十六学級、児童数七百五十五名、徳島市の郊外に位置する自然に囲まれた学校です。本校区の国府町は、かつては阿波国の政治、経済の中心地として栄え、その史跡や文化財が数多く残る歴史と文化の息づく町です。本校では、こうした地域の特色を生かし、「明日を拓く『人間力』の育成ーゆたかさ・たしかなさ・しなやかさをもつ子ども」を目標に、教育活動を展開しています。

二 研究主題

「明日を拓く子どもが育つ社会科学習ー豊かにかかわり合い、自ら考え表現する子どもの育成ー」

三 研究内容

本校では、主体的な問題解決的学習の中で、調べた内容を比較したり、関連付けたり、それらを総合したりして、社会認識を深め、社会に参画する基礎となる力を養うことが重要である

と考えている。とりわけ社会に参画する基礎となる力の重要な構成要素を「問題を解決する力」「価値判断・意思決定する力」「自己評価する力」と捉え、この三つの力を培うため、次のような内容で研究を進めている。

(一) 主体的な学びをつくり出し、社会に参画する基礎となる力を培う教材開発

①学習内容からみる教材化 「地域教材」、「多様な価値が生まれる教材」、「今日的な課題に結び付く教材」を開発する。

②学習活動からみる教材化 体験的・作業的活動や表現活動等に重点を置いている。

③学習内容の構造的明確化 素材から得られた情報を整理し、構造的に記すことにより、単元構成の可能性を探る。

(二) 主体的な学びをつくり出し、社会に参画する基礎となる力を培う学習過程

①学習問題づくりと教師の手だて 単元を通して、子どもが「ぜひ解決したい。」という思いを貫くことができる学習問題づくりの観点及び教師の手だてを研究している。

②学習の見直しをもつための手だて 子どもが問題の解決に向け、学習の見直しを立て、主体的な学びをつくり出すために、手だてを講じている。

③価値判断・意思決定する場面と教師の手だて 問題解決的学習の過程における「みんなで確かめる段階」「広げ深める段階」に、価値判断・意思決定する場面を設定することに焦点を当てた研究を進めている。

(三) 自らの変容や高まった自分の姿がわかり、次の学習への意欲をもつことができる自己評価 自分を冷静に見つめ、自ら高めていけるような力を育てるために自己評価のあり方を振り返る場面・方法・観点等の視点から研究している。

大会当日は、三年生が「ほうれんそうをつくる仕事」四年生が「以西用水をひく」「れきしや文化を活かすまちづくり」、五年生が「命を守る情報ネットワーク」、六年生が「みんなの願いを実現させるために」「憲法とわたしたちの暮らし」の授業を行います。来校をお待ちしています。

全小社研事務局だより

全小社研事務局長 佐藤 繁則



平成二十二年六月十一日(金)
日本出版記念クラブ会館におい
ついで、第四十八回徳島大会
(十一月十八、十九日)の概要

て、第八十八回理事会が開催され
ました。久保田福美会長の挨拶の
後、議事に入り、二十一年度の事
業・決算が承認されました。
引き続き、平成二十二年度役
員が選出・紹介されました。

- 会長 久保田福美(東京・杉並区立高井戸小学校)
- 副会長 石橋 昌雄(東京・武蔵野市立本宿小学校)
- 熊谷 稔(岩手・盛岡市立北厨川小学校)
- 慶徳 正好(神奈川・横浜市立浜小学校)
- 大西 賢一(石川・金沢市立鞍月小学校)
- 野村 均(名古屋・名古屋市立田代小学校)
- 大賀 拓司(大阪・大阪市立聖和小学校)
- 岡本 利明(岡山・岡山市立福浜小学校)
- 檜 幸正(徳島・名西郡石井町立石井小学校)
- 別木 達彦(大分・大分市立下郡小学校)
- 南 哲朗(神奈川・横浜市立稲荷台小学校)
- 泉 長顕(東京・世田谷区立赤提小学校)
- 神山 安弘(東京・江東区立明治小学校)
- 各地区団体組織表による
- 理事 佐藤 繁則(東京・板橋区立金沢小学校)
- 事務局次長 松田 秀男(東京・調布市立柏野小学校)
- 宇田川嘉一(東京・葛飾区立上小松小学校)
- 國分 重隆(東京・新宿区立東戸山小学校)
- 後藤 信行(東京・多摩市立多摩第二小学校)
- 調査研究部長
- 会報部長
- 会計監査
- 常任理事

研究論文の募集

(第二次案内) 説明と第四十九
回石川大会(平成二十三年十月
二十七、二十八日)の準備状況
の報告がありました。

全小社研では、毎年、研究主
題を設定し、研究論文を募集し
てその成果を冊子にまとめ全国
に紹介しております。今年度も
文部科学省教科調査官 澤井
陽介先生をはじめ多くの先生方
に論文審査をお願いし、優れた
論文を研究集録第四十六集とし
て刊行する予定です。今年度は、
左記の研究主題で研究論文の募
集を行います。

- 一 研究主題
「調べて考え、表現する力を
育てる社会科指導の工夫」
- 二 研究実践例
- ① 「考える力」「表現する力」
の育成を目指したもの
- ② 一人一人の児童に生きる力
としての問題解決能力の育成
を目指したもの
- ③ 体験的な活動を適切に組み
入れ、考えに広まりや深まり
をもたせようとしたもの
- ④ 学習の複線化等、児童の多様
な願いに応えようとするもの

- ⑤ ティーム・ティーチング等
の多様な指導方法を効果的に
導入したもの
- ⑥ 学んだことを実社会や実生
活等に活用したもの
- ⑦ 基礎・基本の確実な習得と
応用、発展を図ったもの
- 三 応募要項
- ① 論文字数
A4縦置き 6枚
- ② 締切
平成二十三年
二月一日(金)必着
- ③ 応募方法
官製ハガキに次の事項を記
入の上、平成二十二年十二月
十七日(金)までに事務局長に
お申し込みください。

個人会員募集

東京都板橋区加賀二二一
板橋区立金沢小学校長
佐藤 繁則
TEL〇三一九六四一三〇六八
Fax〇三一九三五七五七七一

全小社研では、中央研究団体
として、小学校社会科発展のた
め、全国各地の研究団体(正会員)
と個人会員(準会員)が連携して
研究活動を続け、その成果を積
み上げてきました。今年度も個
人会員への加入にご協力くださ
い。

個人会員の性格・資格
個人会員は、準会員として会
費を負担することにより、研究
論文への応募資格を得るとも
に、全小社研の研究成果の刊行
物(研究集録・会報・資料)を頒
布いたします。

- ④ 応募資格
正会員である団体(都道府県
社研等)の推薦または個人会員
- ⑤ 発表
審査結果は二月末までに本
人宛に連絡し、入選・佳作は
研究集録に掲載します。
- ⑥ 問い合わせ先・応募先
〒一七三ー〇〇三
- 会費 年額千五百円
- 会費の納入方法
郵便振替または現金書留でお願
いします。郵便振替用紙が必要
方は事務局にご請求ください。
郵便振替口座番号
〇〇一〇〇一六二八二五五七
全国小学校社会科研究協議会